CLUSTERPRO
MC ProcessSaver 2.10 for Linux
syslog メッセージ一覧

© 2025(Apr) NEC Corporation

- フォーマットについて
- 監視対象となる syslog メッセージ
- ProcessSaver 運用メッセージ
- padmin コマンドのメッセージ
- pcheck コマンドのメッセージ
- 消滅監視の異常メッセージ
- ストール監視の異常メッセージ
- pfile 関連のメッセージ
- メッセージ出力例
- 障害解析情報の採取
- 付録

改版履歴

版数	改版	内容
1.0	2015.03	新規作成
2.0	2016.03	MC 2.1 に対応
3.0	2017.04	MC 2.2 に対応
4.0	2018.04	MC 2.3 に対応
5.0	2018.06	障害解析情報を修正、商標の記載の修正
6.0	2019.04	MC 2.4 に対応
7.0	2020.04	MC 2.5 に対応
8.0	2021.04	MC 2.6 に対応
9.0	2022.04	MC 2.7 に対応
10.0	2023.04	MC 2.8 に対応
11.0	2024.04	MC 2.9 に対応
12.0	2025.04	MC 2.10 に対応

はしがき

本書は、CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.10 for Linux (以後 ProcessSaver と記載します)の出力する syslog のメッセージの意味と対処方法について説明したものです。

（1） 商標および登録商標

- ✓ Linux は、米国およびその他の国における Linus Torvalds の登録商標です。
- ✓ CLUSTERPRO、ProcessSaver は、日本電気株式会社の登録商標です。
- ✓ その他記載の製品名および会社名は、すべて各社の商標または登録商標です。
- ✓ なお、本書では®、TM マークを明記しておりません。

目 次

1. フォーマットについて 1
2. 監視対象となる syslog メッセージ 1
3. ProcessSaver 運用メッセージ 2
3.1. LOG_ERR 2
3.2. LOG_WARNING 2
3.3. LOG_INFO 3
4. padmin コマンドのメッセージ 4
4.1. LOG_ERR 4
4.2. LOG_WARNING 5
5. pcheck コマンドのメッセージ 6
5.1. LOG_ERR 6
5.2. LOG_WARNING 10
6. 消滅監視の異常メッセージ 11
6.1. LOG_ERR 11
6.2. LOG_WARNING 14
6.3. LOG_INFO 19
7. ストール監視の異常メッセージ 20
7.1. LOG_WARNING 20
7.2. LOG_INFO 37
8. pfile 関連のメッセージ 38
8.1. LOG_ERR 38
8.2. LOG_WARNING 45
9. メッセージ出力例 46
9.1. pcheck の起動、停止、再読み込み、再起動 46
9.2. 通常運用時 46
9.3. リトライオーバー発生時 47
9.4. ストール監視運用時 49
10. 障害解析情報の採取 50
10.1. 障害解析情報収集ツール 50
10.1.1. 障害解析情報収集ツールの実行 51
10.1.2. 障害解析情報収集ツールでは採取しない情報の収集 60
10.1.3. 収集情報のアーカイブ化 61
10.1.4. 障害解析情報の一覧 62
11. 付録 66
11.1. 手動での障害解析情報の収集方法 66

1. フォーマットについて

syslog に出力するフォーマットは以下のとおりです。

May 24 09:35:26 hostname xxxx[yyyy]: msg

- xxxx　　: コマンド名(padmin または pcheck)
- yyyy　　: pid
- ***msg***　　: メッセージ

syslog の facility と level は以下のとおりです。

facility : LOG_USER

level　: LOG_ERR または LOG_WARNING または LOG_INFO

2.　監視対象となる syslog メッセージ

pcheck が出力する syslog メッセージには、プロセス監視で復旧不可能なエラーを報告する致命的なものがあります。これらのメッセージは運用管理製品等により監視することをおすすめします。
対象となる syslog メッセージは下記のとおりです。
なお、下記以外のメッセージの監視については、特に必須ではありません。

消滅監視によるリトライオーバーのメッセージ(3 種類)

RETRY_OVER:CONTINUE

RETRY_OVER:SHUTDOWN

RETRY_OVER:EXIT

処置

対象プロセスの消滅を検出し、一定回数リトライしても再起動できない状態です。
対象プロセスが起動不可の原因を調査してください。

3. ProcessSaver 運用メッセージ

以下に ProcessSaver の運用メッセージの説明を記載します。

3.1. LOG_ERR

SIGHUP Catch (*xxx*)!!

説明 ： シグナル SIGHUP を受信しました。

SIGINT Catch (*xxx*)!!

説明 ： シグナル SIGINT を受信しました。

SIGTERM Catch (*xxx*)!!

説明 ： シグナル SIGTERM を受信しました。

SIGQUIT Catch (*xxx*)!!

説明 ： シグナル SIGQUIT を受信しました。

Stop *'pcheck 名'* !!

説明 ： シグナル SIGTERM を受信したため、pcheck を終了しました。

Undefine signal Catch (*xxx*)!!

説明 ： その他のシグナルを受信しました。

3.2. LOG_WARNING

shutdown *'pcheck 名'*

説明 ：pcheck を終了しました。

Try to restart (*'監視対象プロセス名'*)

説明 ： 監視対象プロセスの再起動を開始します。

***'pcheck 名'* shutdown**

説明 ：pcheck を終了しました。

***('監視対象プロセス名' ,pid=yyy*) Up**

説明 ： 監視対象プロセスが起動されていることを確認しました。
または監視対象プロセスを起動しました。

(*'監視対象プロセス名'* ,pent_id=*yyy*) Monitor start

説明 ： 監視対象プロセスの監視を再開しました。

(*'監視対象プロセス名'* ,pent_id=*yyy*) Monitor stop

説明 ： 監視対象プロセスの監視を停止しました。

***'pcheck 名'* wait… by /opt/HA/PS/bin/pcheck.ignore**

説明 ： プロセス監視停止用の一時ファイルが作成されているため、
プロセス監視を停止した状態で pcheck を起動しました。

***'pcheck 名'* start by /opt/HA/PS/bin/pcheck.ignore**

説明 ： プロセス監視停止用の一時ファイルを削除したため、プロセス監視を
開始しました。

3.3. LOG_INFO

Command execute. [*'コマンド名'*] pfile=*'pfile 名'*

説明 ： padmin コマンドを実行しました。

Command execute. [*'コマンド名'*] pfile=*'pfile 名'* (arg="*XXX*")

説明 ： padmin コマンドを引数に "XXX" を指定して実行しました。

4. padmin コマンドのメッセージ

以下に padmin コマンドのメッセージの説明、および行うべき処置方法を記載します。

4.1. LOG_ERR

lockf(F_LOCK) fail. errno = *xxx*.

説明 ： ファイルのロックに失敗しました。

処置 ： システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

lockf(F_ULOCK) fail. errno = *xxx*.

説明 ： ファイルのアンロックに失敗しました。

処置 ： システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

lockfile open(2) fail. lockfile = *xxx*.

説明 ： ロックファイルのオープンに失敗しました。

処置 ： システムファイルの上限値を上げるか、オープンしているファイルをクローズしてから、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

shmat(2) fail. errno = *xxx*.

説明 ： 共有メモリの確保に失敗しました。

処置 ： システムの状態を確認して、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

shmget(2) fail. errno = *xxx*.

説明 ： 共有メモリの確保に失敗しました。

処置 ： システムの状態を確認して、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

4.2. LOG_WARNING

Health check: alive check failed.(*xxx*) [*'pfile 名'*]

説明 ： 死活監視の状態チェックで異常を検出しました。

処置 ： 対象プロセスが消滅した原因を調査してください。

Health check: stall check failed.(*xxx*) [*'pfile 名'*]

説明 ： ストール監視の状態チェックで異常を検出しました。

処置 ： 対象プロセスがストールした原因を調査してください。

illegal parameter

説明 : change オプションに指定されたパラメーターが正しくありません。

処置 : change オプションに正しいパラメーターを指定してください。

monitor_interval illegal value

説明 : change オプションに指定された monitor_interval の値が正しくありません。

処置 : change オプションの monitor_interval の値を正しく指定してください。

msg_check_interval must be less than monitor_interval

説明 : change オプションに指定された msg_check_interval の値が monitor_interval で指定された値を超えています。

処置 : change オプションの msg_check_interval の値は、monitor_interval より小さな値を指定してください。

msg_check_interval illegal value

説明 : change オプションに指定された msg_check_interval の値が正しくありません。

処置 : change オプションの msg_check_interval の値を正しく指定してください。

5. pcheck コマンドのメッセージ

以下に pcheck コマンドのメッセージの説明、および行うべき処置方法を記載します。

5.1. LOG_ERR

Activation failed. Product key name is not been entry.

説明 ： ライセンス認証に失敗しました。有償ロックキーが登録されていません。

処置 ： ライセンスファイルに有償ロックキーを登録してください。

Activation failed. Code word is generated by different product key name.

説明 ： ライセンス認証に失敗しました。有償ロックキーが一致していません。

処置 ： 発行されたコードワードが正しく登録できていることを確認してください。

Activation failed. Code word is generated by different host ID.

説明 ： ライセンス認証に失敗しました。ホスト情報が一致していません。

処置 ： 発行されたコードワードが正しく登録できていることを確認してください。

Activation failed. Trial term is expired.

説明 ： ライセンス認証に失敗しました。試用期限を過ぎています。

処置 ： 正式版のライセンスを登録してください。

After *YYYYMMDD*, monitoring function is stopped.

説明 ： ライセンス認証に失敗しました。
YYYYMMDD までは通常どおり使用できますが、経過後は機能制限を行います。
機能制限中は障害が検知されません。

処置 ： コードワードを登録してください。
既に登録している場合は、発行されたコードワードが正しく登録できていることを確認してください。
手順は『CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.10 for Linux リリースメモ』の「1.2.2. ソフトウェアパッケージのインストール後にコードワードを登録する方法」を参照してください。

Monitoring stop until activation succeeded.

説明 ： ライセンス認証に失敗しました。
正しいコードワードの登録が確認できるまで ProcessSaver の機能が制限されます。
機能制限中は、障害が検知されません。

処置 ： コードワードを登録してください。
既に登録している場合は、発行されたコードワードが正しく登録できていることを確認してください。
手順の詳細については『CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.10 for Linux リリースメモ』の「1.2.2. ソフトウェアパッケージのインストール後にコードワードを登録する方法」を参照してください。

Activation failed. other error.(*xxx*)

説明 ： ライセンス認証に失敗しました。

処置 ： コードワード登録ファイル(/etc/n2l2_lockinfo) を確認し、pcheck の再起動を行ってください。
pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Activation error(func=*xxx*, errType=*yyy*, errno=*zzz*)

説明 ： ライセンス認証に失敗しました。

処置 ： コードワード登録ファイル(/etc/n2l2_lockinfo) を確認し、pcheck の再起動を行ってください。
pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Monitoring stop information error.(func=*xxx*, errType=*yyy*, errno=*zzz*)

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ： 障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

illegal option.

説明 ： 無効なオプションが指定されました。

処置 ： 同時に出力される Usage に従って正しいコマンドを再投入してください。
Usage : pcheck -f pfilename
Usage : pcheck -f pfilename -w waittime(second)
Usage : pcheck -f pfilename -t

lockf(F_ULOCK) fail. errno = *xxx*.

説明 ： ロックファイルのアンロックに失敗しました。

処置 ： システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

lockfile open(2) fail. lockfile = *xxx*.

説明 ： ロックファイルのオープンに失敗しました。

処置 ： システムファイルの上限値を上げるか、オープンしているファイルをクローズしてから、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

malloc(3) fail. errno = *xxx*.

説明 ： メモリの確保に失敗しました。

処置 ： メモリの空き容量を増やすか、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

shmat(2) fail. errno = *xxx*.

説明 ： 共有メモリの確保に失敗しました。

処置 ： システムの状態を確認し、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

shmctl fail. errno = *xxx*.

説明 ： 共有メモリの開放に失敗しました。

処置 ： システムの状態を確認し、手動で共有メモリを回収して、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

shmdt(2) fail. errno = *xxx*.

説明 ： 共有メモリの開放に失敗しました。

処置 ： システムの状態を確認し、手動で共有メモリを回収して、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

shmget(2) fail. errno = *xxx*.

説明 ： 共有メモリの確保に失敗しました。

処置 ： システムの状態を確認し、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

('*監視対象プロセス名*') RETRY_OVER:CONTINUE

説明 ： 対象プロセスの再起動回数がリトライ回数に達したため監視を終了します。
retry_over_action の記述に従って、他の動作を継続します。

処置 ： 対象プロセスが消滅した原因を調査してください。

('*監視対象プロセス名*') RETRY_OVER:EXIT

説明 ： 対象プロセスの再起動回数がリトライ回数に達したため監視を終了します。
retry_over_action の記述に従って、pcheck を終了します。

処置 ： 対象プロセスが消滅した原因を調査してください。

('*監視対象プロセス名*') RETRY_OVER:SHUTDOWN

説明 ： 対象プロセスの再起動回数がリトライ回数に達したため監視を終了します。
retry_over_action の記述に従って、pcheck を終了します。

処置 ： 対象プロセスが消滅した原因を調査してください。

5.2. LOG_WARNING

can not remove *xxx* (errno=*yyy*)

説明 ： ロックファイルの削除に失敗しました。

処置 ： 動作に支障ないため、特に処置の必要はありません。

SHUTDOWN caused by (*'監視対象プロセス名'*)

説明 ： 対象プロセスに異常が発生したため、pcheck を終了します。

処置 ： 対象プロセスが消滅した原因を調査してください。

Something wrong with Sharedmemory

説明 ： 共有メモリが不正です。

処置 ： 共有メモリの空き容量を増やすか、システムの再起動を
行ってください。
システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、
障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

(*'監視対象プロセス名'*) FATAL

説明 ： 対象プロセスに異常が発生したため、pcheck を終了します。

処置 ： 対象プロセスが消滅した原因を調査してください。

6. 消滅監視の異常メッセージ

以下に消滅監視の異常メッセージの説明、および処置方法を記載します。

6.1. LOG_ERR

Can't get childproc_kill_mode flag from shm

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Can't get monitor_cnt from shm

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Can't get msg_check_interval from shm

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Can't get msg_ptr from shm

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Can't get pcheck_ptr from shm.

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Can't get pent_ptr from shm.

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Can't get pent_header from shm.

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Can't get reserv message from shm

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Can't get shm_top_ptr from shm

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Failed to get a process information. ('*監視対象プロセス名*' ,pid=*xxx* ,errno=*yyy*)

説明 ： プロセス情報の取得に失敗しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Set pid fail ('*監視対象プロセス名*')

説明 ：pcheck の起動時に対象プロセスが動作していないことを検出しました。

処置 ： 監視対象プロセスが起動されていることを確認してください。起動されていれば、pfile の監視対象プロセス名が正しいことを確認してください。

Process count check error. min_proc_count *xxx* (*yyy*)

説明 ： 監視対象プロセスの数が min_proc_count で指定された数値を下回ったことを検出しました。

処置 ： 監視対象プロセス数が減少した原因を調査してください。

Process count check error. max_proc_count *xxx* (*yyy*)

説明 ： 監視対象プロセスの数が max_proc_count で指定された数値を上回ったことを検出しました。

処置 ： 監視対象プロセス数が増加した原因を調査してください。

-> fork fail (*xxx*). Suspend pcheck

説明 ： 対象プロセスの再起動に失敗しました。fork に失敗したため監視を中断します。

処置 ： 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。
単体で実行できる場合、以下を確認してください。

- 再起動スクリプトに実行権が付与されていること
- 再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること
- 再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

***'pcheck 名'* is already execute.**

説明 ： 指定されたプロセスは既に起動されています。

処置 ： プロセスの二重起動は行えません。どちらかのプロセスを終了してください。
該当するプロセスが動作していなければ、共有メモリの回収を行って、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

pstat_getproc init fail. pfile = *'pfile 名'*.

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

6.2. LOG_WARNING

Can't change status now!!

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

dumpfile close(2) fail. dumpfile = *'共有メモリトレースファイル名'*, errno = *yyy*.

説明 ： 共有メモリトレースファイルのクローズに失敗しました。

処置 ：pcheck の再起動またはシステムの再起動を行ってください。pcheck の再起動、システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

dumpfile open(2) fail. dumpfile = *'共有メモリトレースファイル名'*, errno = *yyy*.

説明 ： 共有メモリトレースファイルのオープンに失敗したか、オープン可能なファイル数を超えました。

処置 ： オープンされている共有メモリトレースファイルがあれば、クローズを行ってからシステムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Fail to dismiss Zombie. (*'監視対象プロセス名'*)

説明 ： 監視対象プロセスがゾンビプロセスのため、終了に失敗しました。

処置 ： 手動で対象プロセスの再起動を行ってください。

Failed to get a starttime. (*'監視対象プロセス名'* ,pid=*xxx* ,errtype=*yyy* ,errno=*zzz*)

説明 ： 対象プロセスのプロセス起動時刻の取得に失敗しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

getrlimit fail. errno = *xxx*.

説明 ： プロセススタックサイズの取得に失敗しました。

処置 ：pcheck の再起動またはシステムの再起動を行ってください。pcheck の再起動、システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Get time fail. errno = *yyy*

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

illegal message.

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

illegal return value from check_restart(*xxx*)

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Process [*'監視対象プロセス名'*] Down

説明 ： 監視対象プロセスが消滅したことを検出しました。

処置 ： 対象プロセスが消滅した原因を調査してください。

Process [*'監視対象プロセス名'* ,pid=*yyy*] Down

説明 ： 監視対象プロセスが消滅したことを検出しました。

処置 ： 対象プロセスが消滅した原因を調査してください。

putenv fail. errno = *xxx*.

説明 ： タイムゾーンの設定に失敗しました。

処置 ：pcheck の再起動またはシステムの再起動を行ってください。
pcheck の再起動、システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Restart fail ('*監視対象プロセス名*')

説明 ： 再起動スクリプトがエラー終了しました。

処置 ： 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

・再起動スクリプトに実行権が付与されていること

・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること

・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

setrlimit fail. errno = *xxx*.

説明 ： プロセススタックサイズの設定に失敗しました。

処置 ：pcheck の再起動またはシステムの再起動を行ってください。

pcheck の再起動、システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

strdup fail (*xxx*)

説明 ： 内部エラーが発生したため、監視対象プロセスの再起動に失敗しました。

処置 ： 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

・再起動スクリプトに実行権が付与されていること

・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること

・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

write(2) fail to dumpfile. dumpfile = '*共有メモリトレースファイル名*', errno = *yyy*.

説明 ： 共有メモリトレースファイルの書き込みに失敗しました。

処置 ： 運用に支障ないため、処置は特に必要ありません。

-> clear shell fail (another error) ('*監視対象プロセス名*')

説明 ： 予期せぬエラーのため、クリアコマンド(clear_cmd)の再起動に失敗しました。

処置 ： 再起動スクリプトの妥当性を確認してください。

-> clear shell fail (exit status) ('*監視対象プロセス名*')

説明 ： 再起動スクリプトが終了ステータス以外で終了したため、クリアコマンド(clear_cmd)の起動に失敗しました。

処置 ： 再起動スクリプトの妥当性を確認してください。

-> clear shell fail (signal accept) ('*監視対象プロセス名*')

説明 ： 再起動スクリプトがシグナルを受信したため、クリアコマンド
(clear_cmd)の再起動に失敗しました。

処置 ： 再起動スクリプトを確認してください。

-> execvp(2) fail (*xxx*)

説明 ： 対象プロセスの再起動に失敗しました。

処置 ： 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。
単体で実行できる場合、以下を確認してください。

・再起動スクリプトに実行権が付与されていること
・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること
・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため
pcheck が先に監視を再開していないこと

-> PS_CLEARED ('*監視対象プロセス名*')

説明 ： クリアコマンド(clear_cmd)の実行に失敗しました。

処置 ： 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。
単体で実行できる場合、以下を確認してください。

・再起動スクリプトに実行権が付与されていること
・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること
・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため
pcheck が先に監視を再開していないこと

-> PS_RESTART_FAIL ('*監視対象プロセス名*')

説明 ： 監視対象プロセスの再起動に失敗しました。

処置 ： 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。
単体で実行できる場合、以下を確認してください。

・再起動スクリプトに実行権が付与されていること
・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること
・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため
pcheck が先に監視を再開していないこと

-> restart shell fail (another error) ('*終了ステータス*')

説明 ： 予期せぬエラー原因で、対象プロセスの再起動に失敗しました。

処置 ： 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

・再起動スクリプトに実行権が付与されていること

・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること

・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

-> restart shell fail (exit status) ('*終了ステータス*')

説明 ： 再起動スクリプトが終了ステータス以外で終了したため、対象プロセスの再起動に失敗しました。

処置 ： 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

・再起動スクリプトに実行権が付与されていること

・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること

・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

-> restart shell fail (signal accept) ('*終了ステータス*')

説明 ： 再起動スクリプトがシグナルを受信したため、対象プロセスの再起動に失敗しました。

処置 ： 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

・再起動スクリプトに実行権が付与されていること

・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること

・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

-> waitpid(2) fail (*xxx*)

説明 ： 対象プロセスの再起動に失敗しました。

処置 ： 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

・再起動スクリプトに実行権が付与されていること

・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること

・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

6.3. LOG_INFO

-> PS_CLEARED ('*監視対象プロセス名*')

説明 ： クリアコマンド(clear_cmd)の実行に失敗しました。

処置 ： 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

・再起動スクリプトに実行権が付与されていること

・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること

・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

7. ストール監視の異常メッセージ

以下にストール監視の異常に関するメッセージの説明、および行うべき処置方法を記載します。

7.1. LOG_WARNING

Can not killed Process: pid = *xxx*

説明 ： ストール状態のプロセスを強制終了させようとしましたが失敗しました。

処置 ： 該当プロセスを手動で終了させてください。

Find Process Stall : pid = *xxx* : filename = *'pfile 名'*

説明 ： ストールしたプロセスを検出しました。

処置 ： プロセスがストールしている理由を調査してください。

Find Process Stall : pid = *xxx*

説明 ： ストールしたプロセスを検出しました。

処置 ： プロセスがストールしている理由を調査してください。

Target process not exist: pid = *xxx* (*yyy*)

説明 ： ストール状態のプロセスの強制終了を確認しました。

処置 ： プロセスがストールしている理由を調査してください。

Target process exist. send to SIGKILL: pid = *xxx*

説明 ： ストール状態のプロセスを強制終了させようとしましたが、プロセスが設定したシグナルで終了しなかったため SIGKILL による強制停止を行いました。

処置 ： プロセスがストールしている理由を調査してください。

Killed Process: pid = *xxx*

説明 ： ストール状態のプロセスを強制終了させました。

処置 ： プロセスがストールしている理由を調査してください。

Resolved Process Stall detection : pid = *xxx*[*yyy*]

説明 ： プロセスはストール状態から正常動作に復帰しました。

処置 ： 対応は不要です。

Resolved Process Stall suspection : pid = *xxx*[*yyy*]

説明 ： プロセスはストール推定状態から正常動作に復帰しました。

処置 ： 対応は不要です。

Process Stall detected : pid = *xxx*[*yyy*]

説明 ： ストールしたプロセスを検出しました。

処置 ： プロセスがストールしている理由を調査してください。

Suspected Process Stall : pid = *xxx*[*yyy*]

説明 ： ストールと推定されるプロセスを検出しました。

処置 ： プロセスの動作が正常が確認してください。

User init function fail. (func=*xxx* file=*yyy* result=*zzz*).

説明 ：INIT エントリの処理に失敗したため、pcheck を終了しました。

処置 ：pfile 中の INIT エントリの内容を確認してください。

INIT: lck_log_put_p pointer is not found.

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT: argument must be specified.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の INIT エントリの引数が不正です。

処置 ：INIT エントリの引数を正しく指定してください。

INIT: argument is invalid value.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の INIT エントリの引数値が不正です。

処置 ：INIT エントリの引数値を正しく指定してください。

INIT: malloc(3) fail.[*xxx*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT: log file name is not found.[*xxx*]

説明 : pfile 中の INIT エントリのログファイル名の指定が不正です。

処置 : INIT エントリのログファイル名を正しく指定してください。

INIT: log file name is too large.[*xxx*]

説明 : pfile 中の INIT エントリのログファイル名が長すぎます。

処置 : ログファイル名は絶対パスで 1024 文字以内で指定してください。

INIT: judgment string error.[*xxx*]

説明 : pfile 中の INIT エントリの判定文字列の指定が不正です。

処置 : INIT エントリの判定文字列を正しく指定してください。

INIT: search keyword error.[*xxx*]

説明 : pfile 中の INIT エントリの正規表現の検索文字列の指定が不正です。

処置 : INIT エントリの正規表現の検索文字列を正しく指定してください。

INIT: search keyword is too large.[*xxx*]

説明 : pfile 中の INIT エントリの正規表現の検索文字列が長すぎます。

処置 : 正規表現の検索文字列は 1024 文字以内で指定してください。

INIT: regcomp(3) fail.[*xxx*][*yyy*]

説明 : 内部エラーが発生しました。

処置 : pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT: target file open error.[*xxx*][*yyy*]

説明 : 内部エラーが発生しました。

処置 : pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT: target file seek error.[*xxx*][*yyy*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ： pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT: maxopenfile count must be specified.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の INIT エントリの最大オープンファイル数の値が不正です。

処置 ：INIT エントリの最大オープンファイル数の値を正しく指定してください。

INIT: maxopenfile count is invalid, use the default.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の INIT エントリの最大オープンファイル数の値が想定範囲外のためデフォルト値が指定されました。

処置 ：INIT エントリの最大オープンファイル数の値を正しく指定してください。

INIT: malloc(3) fail.[*xxx*][bef]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT: malloc(3) fail.[*xxx*][now]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ： pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT: maxthread count must be specified.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の INIT エントリの最大起動スレッド数の値が不正です。

処置 ：INIT エントリの最大起動スレッド数の値を正しく指定してください。

INIT: maxthread count is invalid, use the default.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の INIT エントリの最大起動スレッド数の値が想定範囲外のためデフォルト値が指定されました。

処置 ：INIT エントリの最大起動スレッド数の値を正しく指定してください。

INIT: open(2) error.[*xxx*][*yyy*][*zzz*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT: read(2) error.[*xxx*][*yyy*][*zzz*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT: stat_starttime is NULL.[*xxx*][*yyy*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT: stat_starttime is invalid value.[*xxx*][*yyy*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT: argc must be specified.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の INIT エントリの引数 argc が未設定です。

処置 ：INIT エントリの引数を正しく指定してください。

INIT: argc is invalid value.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の INIT エントリの引数 argc の値が整数化できません。

処置 ：INIT エントリの引数を正しく指定してください。

INIT: argc must be 1 or 2.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の INIT エントリの引数 argc の値が指定範囲外です。

処置 ：INIT エントリの引数を正しく指定してください。

INIT: judgment_rule must be specified.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の INIT エントリの引数「プロセスストールの判断規定」が未設定です。

処置 ：INIT エントリの引数を正しく指定してください。

INIT: judgment_rule is invalid value.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の INIT エントリの引数「プロセスストールの判断規定」の値が整数化できません。

処置 ：INIT エントリの引数を正しく指定してください。

INIT: judgment_rule must be 0 or 1 or 2.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の INIT エントリの引数「プロセスストールの判断規定」の値が指定範囲外です。

処置 ：INIT エントリの引数を正しく指定してください。

INIT: stack_def_filename must be specified.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の INIT エントリの引数「スタック情報ファイル名」が未設定です。

処置 ：INIT エントリの引数を正しく指定してください。

INIT: stack_def_filename is too long.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の INIT エントリの引数「スタック情報ファイル名」の文字数超過です。

処置 ：INIT エントリの引数を正しく指定してください。

INIT: fopen(3) error.[*xxx*][*yyy*][*zzz*]

説明 ：pfile 中の INIT エントリの引数「スタック情報ファイル」のオープンに失敗しました。またはファイルが存在しません。

処置 ：INIT エントリの引数を正しく指定してください。

INIT: too many function call definitions in the stack_def_file. [*xxx*][*yyy*]

説明 ：「スタック情報ファイル」の「ファンクションコール名の最大定義数」オーバーです。

処置 ： ファンクションコール名は合計 256 個までの範囲内で設定してください。

INIT: too long function call name in the stack_def_file. [*xxx*][*yyy*]

説明 ：「スタック情報ファイル」の
「ファンクションコール名の最大文字数」オーバーです。

処置 ： ファンクションコール名はそれぞれ 256 文字までの範囲内で
設定してください。

INIT: no definition of function call name in the stack_def_file. [*xxx*][*yyy*]

説明 ：「スタック情報ファイル」に有効な定義がありません。

処置 ： ファンクションコール名は正しく指定してください。

INIT: fopen(3) error.[*xxx*][*yyy*][*zzz*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が
改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに
連絡してください。

INIT: Could not get system startup time.[0][*xxx*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が
改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに
連絡してください。

INIT: since the memory domain remained, it deleted.[*xxx*]

説明 ： 前回のストール監視情報が残っていたため、削除しました。

処置 ： 正常に動作しています。対応は不要です。

INIT: calloc(3) fail.[*xxx*][*yyy*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が
改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに
連絡してください。

EXEC: function pointer is not found.

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が
改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに
連絡してください。

EXEC: lck_log_put_p pointer is not found.

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: system data error.[stall_msgp:NULL]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: argument must be specified.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の EXEC エントリ引数が不正です。

処置 ：EXEC エントリ引数を正しく指定してください。

EXEC: status error.[*xxx*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: argument is invalid value.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の EXEC エントリの引数値が不正です。

処置 ：EXEC エントリの引数値を正しく指定してください。

EXEC: failover time must be specified.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の EXEC エントリのフェールオーバー時間の値が不正です。

処置 ：EXEC エントリのフェールオーバー時間の値を正しく指定してください。

EXEC: failover time is invalid, use the default.[*xxx*]

説明 ：pfile 中の EXEC エントリのフェールオーバー時間の値が想定範囲外のためデフォルト値が指定されました。

処置 ：EXEC エントリのフェールオーバー時間の値を正しく指定してください。

EXEC: time(2) fail.[*xxx*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: target filename error.[NULL]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: target file open error.[*xxx*][*yyy*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: stat(2) fail.[*xxx*][*yyy*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: target file seek error.[*xxx*][*yyy*][seek_pnt:*zzz*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: target file rotation.

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: target file read error.[ret=*xxx*][*yyy*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: found a message[*xxx*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: target file seek error.[*xxx*][*yyy*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: found an error.

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: Normal End.

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: function_info pointer is not found.

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: function_info pointer is not found.[bef]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: function_info pointer is not found.[now]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: the openfile count exceeded the maxopenfile count.

説明 ： 前回のオープンファイル数と現在オープンファイル数が最大オープンファイル数を超えています。

処置 ：INIT エントリの最大オープンファイル数の値を最適値へ変更してください。

EXEC: opendir(3) error.[*xxx*][*yyy*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: stat(2) error.[*xxx*][*yyy*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: readlink(2) error.[*xxx*][*yyy*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: the thread count exceeded the maxthread count.

説明 ： 前回起動スレッド数と現在起動スレッド数が最大起動スレッド数を超えています。

処置 ：INIT エントリの最大起動スレッド数の値を最適値へ変更してください。

EXEC: general_info pointer is not found.[*pent_id*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: PID is invalid value.[*pent_id*][*pid*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: open(2) error.[*errno*][*pent_id*][*filepath*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: read(2) error.[*errno*][*pent_id*][*filepath*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: file is too large to be read.[*pent_id*][*filepath*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: xxx length is unexpected.[*pent_id*][*filepath*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: xxx is NULL.[*pent_id*][*filepath*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: xxx is invalid value.[*pent_id*][*filepath*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: fopen(3) error.[*errno*][*pent_id*][*filepath*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: strtok(3) error.[*errno*][*pent_id*][*filepath*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: opendir(3) error.[*errno*][*pent_id*][*dirpath*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: calloc(3) fail.[*errno*][*pent_id*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: Process threads count does not match.[*threads*][*pent_id*][*dirpath*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: judge_flg must be 0 or 1 or 2.[*judge_flg*][*pent_id*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: thd_stack_list_head pointer is not found.[*judge_flg*][*pent_id*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: stack_def_list_head pointer is not found.[*judge_flg*][*pent_id*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: function pointer is not found.[*pent_id*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: lck_log_put_p pointer is not found.[*pent_id*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: stall_dump_fname error.[*pent_id*][stall_dump_fname:NULL]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: stall_dump fopen(3) fail.

[*errno*][*pent_id*], stall_dump_fname = '*dump_fname パス*'

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: argument must be specified.[*pent_id*]

説明 ：pfile 中の EXEC エントリの引数 argc が未設定です。

処置 ：EXEC エントリの引数を正しく指定してください。

EXEC: argc must be 3.[*pent_id*]

説明 ：pfile 中の EXEC エントリの引数 argc の値が指定範囲外です。

処置 ：EXEC エントリの引数を正しく指定してください。

EXEC: failover time must be specified.[*pent_id*]

説明 ：pfile 中の EXEC エントリの引数「リトライオーバー時間」が未設定です。

処置 ：EXEC エントリの引数を正しく指定してください。

EXEC: failover time is invalid, use the default.[*pent_id*]

説明 ：pfile 中の EXEC エントリの引数「リトライオーバー時間」の値が整数化できません。

処置 ：EXEC エントリの引数を正しく指定してください。

EXEC: failover time is invalid, use the default.[*pent_id*]

説明 : pfile 中の EXEC エントリの引数「リトライオーバー時間」の
値が指定範囲外です。

処置 : EXEC エントリの引数を正しく指定してください。

EXEC: action_when_suspect must be specified.[*pent_id*]

説明 : pfile 中の EXEC エントリの引数「ストール推定発生時の動作規定」が
未設定です。

処置 : EXEC エントリの引数を正しく指定してください。

EXEC: action_when_suspect is invalid value.[*pent_id*]

説明 : pfile 中の EXEC エントリの引数「ストール推定発生時の動作規定」の
値が整数化できません。

処置 : EXEC エントリの引数を正しく指定してください。

EXEC: action_when_suspect must be 0 or 1.[*pent_id*]

説明 : pfile 中の EXEC エントリの引数「ストール推定発生時の動作規定」の
値が指定範囲外です

処置 : EXEC エントリの引数を正しく指定してください。

EXEC: syslog_when_suspect must be specified.[*pent_id*]

説明 : pfile 中の EXEC エントリの引数
「ストール推定発生時の SYSLOG 出力」が未設定です。

処置 : EXEC エントリの引数を正しく指定してください。

EXEC: syslog_when_suspect is invalid value.[*pent_id*]

説明 : pfile 中の EXEC エントリの引数
「ストール推定発生時の SYSLOG 出力」の値が整数化できません。

処置 : EXEC エントリの引数を正しく指定してください。

EXEC: syslog_when_suspect must be 0 or 1.[*pent_id*]

説明 : pfile 中の EXEC エントリの引数
「ストール推定発生時の SYSLOG 出力」の値が指定範囲外です

処置 : EXEC エントリの引数を正しく指定してください。

EXEC: time(2) error.[*errno*][*pent_id*]

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

QUIT: function pointer is not found.

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

QUIT: lck_log_put_p pointer is not found.

説明 ： 内部エラーが発生しました。

処置 ：pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

7.2. LOG_INFO

EXEC: time(2) error.[*xxx*][*yyy*]

説明 ： ダンプファイル出力の際の内部エラーです。ダンプファイル出力日時が "dump_date = --------" と出力されます。

処置 ： 対応は不要です。

EXEC: creation_date error.[*xxx*]

説明 ： ダンプファイル出力の際の内部エラーです。プロセスの起動日時が "creation_date = --------" と出力されます。

処置 ： 対応は不要です。

EXEC: oldest_stall_time error.[*xxx*]

説明 ： ダンプファイル出力の際の内部エラーです。プロセス停止確認時刻が "oldest_stall_time = --------" と出力されます。

処置 ： 対応は不要です。

8. pfile 関連のメッセージ

以下に pfile 関連の異常に関するメッセージの説明、および行うべき処置方法を記載します。

8.1. LOG_ERR

can not load pfile information. pfile = *'pfile 名'*

説明 : pfile の個別部情報(PENT)に不正な行があります。

処置 : 個別部情報(PENT)を正しく設定してください。

checkproc length is too long.

説明 : pfile 中の checkproc オプションが長すぎます。

処置 : checkproc オプションは 255 文字以内で指定してください。

Clear_shell length is too long.

説明 : pfile 中の clear_cmd オプションが長すぎます。

処置 : clear_cmd オプションは 255 文字以内の絶対パスで指定してください。

Clear_shell must be specified.

説明 : pfile 中の clear_cmd オプションが不正です。

処置 : clear_cmd オプションはスクリプト名を 255 文字以内の絶対パスで指定してください。

Grace (*xxx*) is illegal parameter.

説明 : pfile 中に指定された grace_time が不正です。

処置 : grace_time を正しく指定してください。

Grace (*xxx*) must be digit and greater than 0.

説明 : pfile 中に指定された grace_time に 0 より小さい値が指定されています。

処置 : grace_time は、0～60*60*24*360 秒の値を正しく指定してください。

grouptag length is too long.

説明 : pfile 中の grouptag オプションが長すぎます。

処置 : grouptag オプションは 255 文字以内で指定してください。

grouptag must be specified.

説明 : pfile 中の grouptag オプションが不正です。

処置 : grouptag オプションを正しく指定してください。

include_strings length is too long.

説明 : pfile 中の include_strings オプションが長すぎます。

処置 : include_strings オプションは 255 文字以内で指定してください。

include_strings must be specified.

説明 : pfile 中の include_strings オプションが不正です。

処置 : include_strings オプションを正しく指定してください。

Invalid key: key = *xxx*.

説明 : pfile 中の共通部情報(PARAM)に不正なエントリがあります。

処置 : 共通部情報(PARAM)に不正なエントリがないかを確認してください。

Invalid value: IPCKEY value = *xxx*.

説明 : pfile 中の IPCKEY が不正です。

処置 : IPCKEY をシステムで一意となる 0x00000001～0x7fffffff の範囲で正しく設定してください。また、OS や他製品が使用する共有メモリの key と競合しないように、ipcs(8) コマンドを使用して確認してください。

Invalid value: MONITOR_INTERVAL value = *xxx*.

説明 : pfile 中の MONITOR_INTERVAL が不正です。

処置 : MONITOR_INTERVAL を 1～60*60*24 秒の範囲で正しく設定してください。 また MSG_CHECK_INTERVAL より大きい値で、MSG_CHECK_INTERVAL の整数倍の値を設定してください。

Invalid value: MSG_CHECK_INTERVAL value = *xxx*.

説明 : pfile 中の MSG_CHECK_INTERVAL が不正です。

処置 : MSG_CHECK_INTERVAL を 1～60*60*24 秒の範囲で正しく設定してください。

また MONITOR_INTERVAL より小さい値を設定してください。

min_proc_count (*xxx*) must be digit and greater than 0.

説明 : pfile 中の min_proc_count オプションが設定されていないか、
0 以下の値が指定されています。

処置 : min_proc_count オプションを 1～64 の範囲で正しく設定してください
(単位は個)。

min_proc_count must be specified.

説明 : pfile 中の min_proc_count オプションが正しく指定されていません。

処置 : min_proc_count オプションを正しく指定してください。

max_proc_count (*xxx*) must be digit and greater than 0

説明 : pfile 中の max_proc_count オプションが設定されていないか、
0 以下の値が指定されています。

処置 : max_proc_count オプションを 1～64 の範囲で正しく設定してください
(単位は個)。

max_proc_count must be specified.

説明 : pfile 中の max_proc_count オプションが正しく指定されていません。

処置 : max_proc_count オプションを正しく指定してください。

max_proc_count (*xxx*) must be beyond min_proc_count(*yyy*)

説明 : pfile 中の max_proc_count オプションに、
min_proc_count オプションに指定された値未満が指定されています。

処置 : max_proc_count オプションは min_proc_count オプション以上の値を
設定してください
(単位は個)。

option length is too long.

説明 : pfile 中のオプションパラメーターに指定できる文字数を超えています。

処置 : オプション情報を正しく指定してください。

option must be specified.

説明 : pfile 中のオプションパラメーターの指定が不正です。

処置 : オプション情報を正しく指定してください。

option tag is illegal parameter.

説明 : pfile 中のオプションパラメーターが不正です。

処置 : オプション情報のキーに不正パラメーターが指定されていないことを確認してください。

pfile init fail. pfile = *'pfile 名'*.

説明 : pfile の初期化に失敗しました。エラーの詳細は直前のログを確認してください。

処置 : pfile が正しく指定されているか確認してください。

pname_full_match must be specified. enable or disable.

説明 : pfile 中の pname_full_match オプションに指定された値が不正です。

処置 : pname_full_match は disable または enable を正しく設定してください。

pname_full_match is enable or disable.

説明 : pfile 中の pname_full_match オプションに指定された値が不正です。

処置 : pname_full_match は disable または enable を正しく設定してください。

Pname length is too long.

説明 : pfile 中の監視対象プロセス名が長すぎます。

処置 : 監視対象プロセス名は、引数を含め 1020 文字以内で指定してください。

Pname must be specified.

説明 : pfile 中の監視対象プロセス名が正しく指定されていません。

処置 : 監視対象プロセス名は、引数を含め 1020 文字以内で正しく指定してください。
また監視対象プロセス名に : (コロン)が含まれる場合は、直前に ¥(バックスラッシュ)を挿入してください。

process count max over.

説明 : pfile 中の個別部情報 (PENT) 行のエントリ数が多すぎます。

処置 : 個別部情報 (PENT) のエントリは 256 行以内で指定してください。

Restart_cmd length is too long.

説明 : pfile 中の再起動スクリプトの指定が長すぎます。

処置 : 再起動スクリプトは絶対パスで 255 文字以内の値を正しく指定してください。

Restart_cmd must be specified.

説明 : pfile 中の再起動スクリプトが正しく指定されていません。

処置 : 再起動スクリプトを正しく指定してください。
なお、再起動スクリプトを省略する場合には、"-" を指定してください。

restart_timeout must be specified.

説明 : pfile 中の restart_timeout オプションに指定された値が不正です。

処置 : restart_timeout オプションを 1～60*60*24 秒の範囲で正しく設定してください(単位は秒)。

restart_timeout (*xxx*) must be digit and greater than 0.

説明 : pfile 中の restart_timeout オプションが設定されていないか 0 以下の値が設定されています。

処置 : restart_timeout オプションを 1～60*60*24 秒の範囲で正しく設定してください(単位は秒)。

restart_waittime must be specified.

説明 : pfile 中の restart_waittime オプションに指定された値が不正です。

処置 : restart_waittime オプションを 1～60*60*24 秒の範囲で正しく設定してください(単位は秒)。

restart_waittime (*xxx*) must be digit and greater than 0.

説明 : pfile 中の restart_waittime オプションが設定されていないか 0 以下の値が設定されています。

処置 : restart_waittime オプションを 1～60*60*24 秒の範囲で正しく設定してください(単位は秒)。

retry_count_max (*xxx*) is illegal parameter.

説明 : pfile 中の retry_count_max に指定された値が不正です。

処置 : retry_count_max を正しく設定してください。

retry_count_max (*xxx*) must be digit and greater than 0.

説明 : pfile 中の retry_count_max に 0 より小さい値が設定されています。

処置 : retry_count_max を 0～1024 回の範囲で正しく指定してください。

Retry_over_action must be specified.

説明 : pfile に retry_over_action が指定されていません。

処置 : retry_over_action に CONTINUE、SHUTDOWN、EXIT のいずれかの値を指定してください。

Retry_over_action (*xxx*) is invalid.

説明 : pfile 中の retry_over_action の値が不正です。

処置 : retry_over_action に CONTINUE、SHUTDOWN、EXIT のいずれかの値を指定してください。

SHM_DUMP_FILE length is too long.

説明 : pfile 中の SHM_DUMP_FILE が指定できる最大長を超えています。

処置 : SHM_DUMP_FILE を 128 文字より小さい値で正しく設定してください。

shmget(2) use other process.

説明 : pfile 中で指定した IPCKEY がすでに使用されています。

処置 : 他のプロセスが使用している IPCKEY 以外を 0x00000001～0x7fffffff の範囲で指定してください。
また、該当する IPCKEY のプロセスが動作していないのであれば、ipcrm(8) コマンド等を使用して、共有メモリの回収を行ってください。

SG something wrong.: line = *xxx*

説明 : pfile 中に不正な行があります。

処置 : 該当する行の妥当性を確認し、正しく修正してください。

Uid and uname cannot be registered duplication.

説明 : pfile 中の uid、uname オプションはどちらか 1 つしか指定できません。

処置 : uid または uname のどちらかのオプションのみ指定してください。

Uid (*xxx*) must be digit and greater than 0.

説明 : pfile 中の uid オプションに 0 より小さい値が指定されています。

処置 : uid オプションは 0 以上の値で正しく指定してください。

Uname (*xxx*) is wrong.

説明 : pfile 中の uname オプションに指定されたユーザー名がありません。

処置 : uname オプションを正しく指定して、pcheck の再起動を行ってください。

8.2. LOG_WARNING

Can't reload. Something wrong in [*'pfile 名'*]

説明 : pfile の再読み込み(reload) に失敗しました。

処置 : pfile の妥当性を確認してください。

Can't shutdown [*'pcheck 名'*]

説明 : pcheck が終了できませんでした。

処置 : kill(2) コマンドを使用して、pcheck を強制終了してください。

fopen(3) fail. pfile = *'pfile 名'*, errno = *yyy*.

説明 : pfile のオープンに失敗しました。または pfile が存在しません。

処置 : IPCKEY または個別部情報(PENT) を正しく設定してください。

Invalid line: [*xxx*].

説明 : pfile 中に、不正な行があります。

処置 : pfile の該当する行を正しく設定してください。

IPCKEY and process_entry must be specified. pfile = *'pfile 名'*.

説明 : IPCKEY に不正な値が指定されているか、pfile の個別部情報(PENT) が存在しません。

処置 : IPCKEY または個別部情報(PENT)を正しく設定してください。

9. メッセージ出力例

以下に運用時のメッセージの出力例を示します。

9.1. pcheck の起動、停止、再読み込み、再起動

pcheck[*xxx*]: (*'監視対象プロセス名'* ,pid=*yyy*) Up

監視対象プロセスの起動を確認しました。

padmin[*xxx*]: Command execute. [stop] pfile=*'監視対象プロセス名'*

padmin コマンドを使用して、pcheck による監視を一時停止(stop)しました。

padmin[*xxx*]: Command execute. [reload] pfile=*'監視対象プロセス名'*

padmin コマンドを使用して、pfile を再読み込み(reload)しました。

padmin[*xxx*]: Command execute. [start] pfile=*'監視対象プロセス名'*

padmin コマンドを使用して、pcheck による監視を再開(start)しました。

9.2. 通常運用時

pcheck[*xxx*]: (*'監視対象プロセス名'* ,pid=*yyy*) Up

監視対象プロセスの起動を確認しました。

pcheck[*xxx*]: Process [*'監視対象プロセス名'* ,pid=*yyy*] Down

監視対象プロセスの消滅を検出しました。

pcheck[*xxx*]: Try to restart (*'監視対象プロセス名'*)

監視対象プロセスの再起動を開始しました。

pcheck[*xxx*]: (*'監視対象プロセス名'* ,pid=*yyy*) Up

監視対象プロセスの再開を確認しました。

9.3. リトライオーバー発生時

以下にデフォルト設定(リトライ回数 3 回、Grace 値 86400 秒)の場合に、
監視対象プロセスの起動に失敗した例を示します。

① retry_over_action : CONTINUE 指定の場合

pcheck[*xxx*]: Set pid fail (*'監視対象プロセス名'*)
pcheck[*xxx*]: Try to restart (*'監視対象プロセス名'*)
監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(1 回目)。
pcheck[*xxx*]: Process [*'監視対象プロセス名'* ,pid=*yyy*] Down
pcheck[*xxx*]: Try to restart (*'監視対象プロセス名'*)
監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(2 回目)。
pcheck[*xxx*]: Process [*'監視対象プロセス名'* ,pid=*yyy*] Down
pcheck[*xxx*]: Try to restart (*'監視対象プロセス名'*)
監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(3 回目)。
pcheck[*xxx*]: Process [*'監視対象プロセス名'* ,pid=*yyy*] Down
監視対象プロセスの監視に失敗しました(4 回目)。
pcheck[*xxx*]: (*'監視対象プロセス名'*) RETRY_OVER:CONTINUE
設定されたリトライ回数(3 回)を超えたため、retry_over_action の記述に従って、
pcheck は起動したまま、監視対象プロセスの監視のみ停止しました。

② retry_over_action : EXIT 指定の場合

pcheck[*xxx*]: Set pid fail (*'監視対象プロセス名'*)
pcheck[*xxx*]: Try to restart (*'監視対象プロセス名'*)
監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(1 回目)。
pcheck[*xxx*]: Process [*'監視対象プロセス名'* ,pid=yyy] Down
pcheck[*xxx*]: Try to restart (*'監視対象プロセス名'*)
監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(2 回目)。
pcheck[*xxx*]: Process [*'監視対象プロセス名'* ,pid=yyy] Down
pcheck[*xxx*]: Try to restart (*'監視対象プロセス名'*)
監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(3 回目)。
pcheck[*xxx*]: Process [*'監視対象プロセス名'* ,pid=*yyy*] Down
監視対象プロセスの監視に失敗しました(4 回目)。
pcheck[*xxx*]: (*'監視対象プロセス名'*) FATAL
pcheck[*xxx*]: (*'監視対象プロセス名'*) RETRY_OVER:EXIT
設定されたリトライ回数(3 回)を超えたため、retry_over_action の記述に従って、

pcheck を終了しました。

③ retry_over_action : SHUTDOWN 指定の場合

pcheck[*xxx*]: Set pid fail (*'監視対象プロセス名'*)

pcheck[*xxx*]: Try to restart (*'監視対象プロセス名'*)

監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(1 回目)。

pcheck[*xxx*]: Process [*'監視対象プロセス名'* ,pid=*yyy*] Down

pcheck[*xxx*]: Try to restart (*'監視対象プロセス名'*)

監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(2 回目)。

pcheck[*xxx*]: Process [*'監視対象プロセス名'* ,pid=*yyy*] Down

pcheck[*xxx*]: Try to restart (*'監視対象プロセス名'*)

監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(3 回目)。

pcheck[*xxx*]: Process [*'監視対象プロセス名'* ,pid=*yyy*] Down

監視対象プロセスの監視に失敗しました(4 回目)。

pcheck[*xxx*]: (*'監視対象プロセス名'*) FATAL

pcheck[*xxx*]: (*'監視対象プロセス名'*) RETRY_OVER:SHUTDOWN

設定されたリトライ回数(3 回)を超えたため、retry_over_action の記述に従って、pcheck を終了しました。

9.4. ストール監視運用時

pcheck[*xxx*]: Set pid fail (*'監視対象プロセス名'*)

pcheck[*xxx*]: (*'監視対象プロセス名'* ,pid=*yyy*) Up

監視対象プロセスの起動を確認しました。

pcheck:*www*[*xxx*]: Find Process Stall : pid = *yyy*

ストールしたプロセスを検出しました。

pcheck:*www*[*xxx*]: PS_EXEC: event occurred. (func=_bi_stall file=*'ストール検出 DLL 名'* result=1)

ストール監視の監視エントリ(PS_EXEC)を実行しました。

pcheck:*www*[*xxx*]: Target process not exist: pid = *yyyy* (0)

ストール状態のプロセスの終了を確認しました。

pcheck:*www*[*xxx*]: Killed Process: pid = *yyy*

ストール状態のプロセスを強制終了しました。

pcheck:*www*[*xxx*]: Process [*'監視対象プロセス名'* ,pid=*yyy*] Down

監視対象プロセスの消滅を検出しました。

pcheck:*www*[*xxx*]: Try to restart (*'監視対象プロセス名'*)

監視対象プロセスの再起動を開始しました。

pcheck:*www*[*xxx*]: (*'監視対象プロセス名'*) RETRY_OVER:EXIT

retry_over_action の記述に従って、pcheck を終了します。

pcheck:*www*[*xxx*]: (*'監視対象プロセス名'*) FATAL

pcheck を終了しました。

www は定義したストール監視機能により、それぞれ以下となります。

ファイルの更新時刻によるストール監視	: _bi_stall
ファイルの出力メッセージによるストール監視	: _bi_stall_message
対象プロセスのオープンファイルによるストール監視	: _bi_stall_openfile
対象プロセスの起動スレッドによるストール監視	: _bi_stall_thread

10. 障害解析情報の採取

ProcessSaver 運用中に何らかの障害が発生した場合は、下記の方法で情報採取を行ってください。

10.1. 障害解析情報収集ツール

障害解析情報収集ツール（以降ツールと呼ぶ）を実行することにより、自動的に必要な情報を収集し圧縮ファイルが作成されます。収集する情報については「10.1.4 障害解析情報の一覧」をご参照ください。
このツールが正常に動作しない場合は、手動にて必要な情報を収集してください。手動での手順については、付録「11.1 手動での障害解析情報の収集方法」を参照してください。

障害解析情報の収集手順を下記に示します。

1. 障害解析情報収集ツールの実行
2. 障害解析情報収集ツールでは採取しない情報の収集
3. 収集情報のアーカイブ化

10.1.1. 障害解析情報収集ツールの実行

障害解析情報収集ツールの実行手順は以下のとおりです。

No.	手順概要
1	コンフィグファイルの作成
2	障害解析情報の採取
3	採取結果の確認 (pstool_collect_info_<日付>.tar.gz と情報目録が 出力されていること、動作ログ(出力画面)を確認)

（１） コンフィグファイルの作成

コンフィグファイルの作成に関する作業には次のものがあります。

- コンフィグファイルの有無確認
- コンフィグファイルの生成
- コンフィグファイルの確認
- コンフィグファイルの編集

作業の流れを下図に示します。

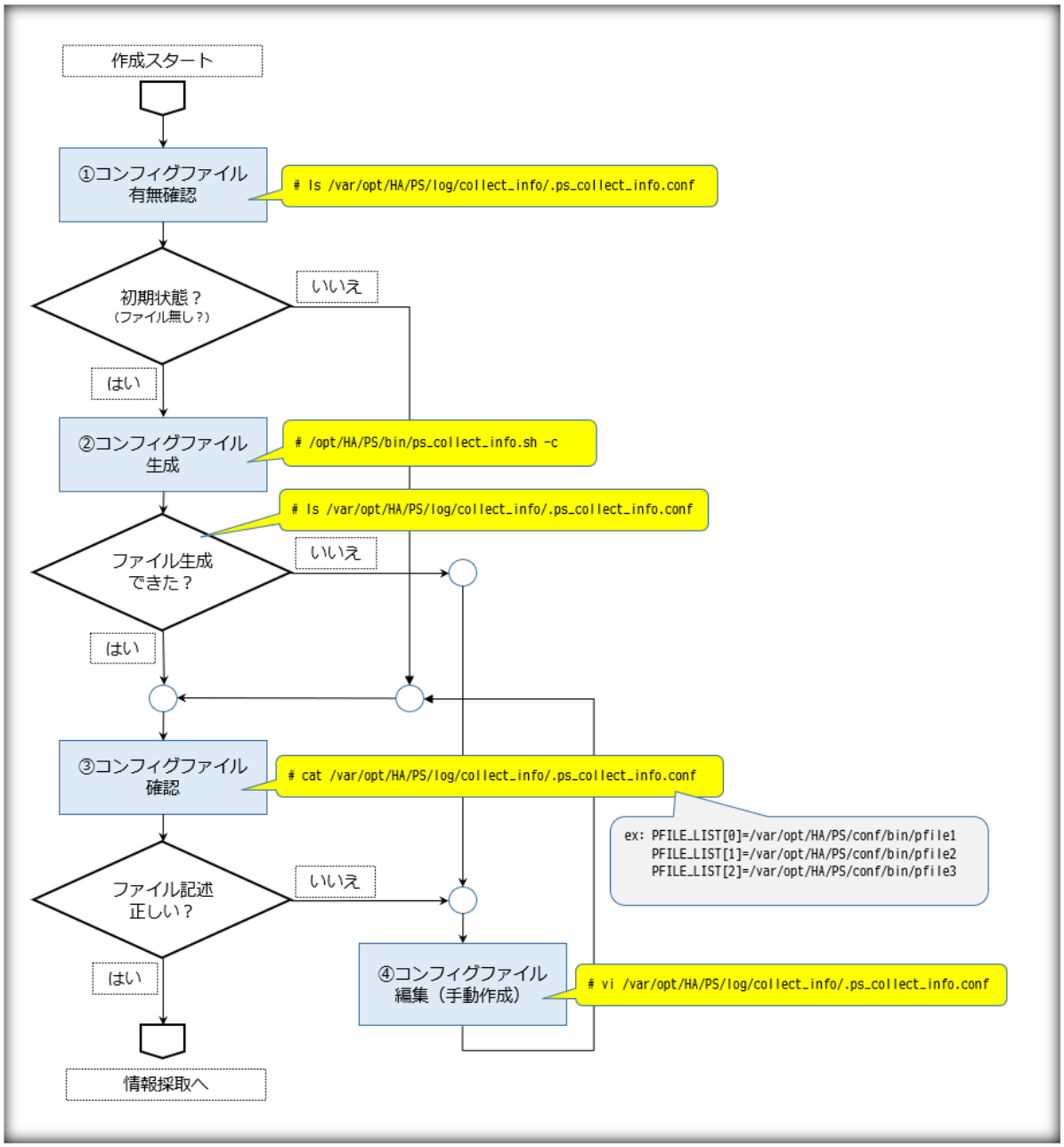

図 10.1.1 コンフィグファイル作成のフロー

それぞれの作業について以降で説明します。

① コンフィグファイルの有無確認

つぎのファイルの有無を確認します。初期状態では存在しません。

/var/opt/HA/PS/log/collect_info/.ps_collect_info.conf

ファイルが存在しないときはコンフィグファイルの生成（→②）、
ファイルが存在する場合はコンフィグファイルの確認（→③）に進んでください。

② コンフィグファイルの生成

本ツールを -c オプション付きで実行します。

【管理者権限で実行】

```
# /opt/HA/PS/bin/ps_collect_info.sh -c
```

```
[root@rhel-8-7 bin]# /opt/HA/PS/bin/ps_collect_info.sh -c
  ##### ProcessSaver collect information start. #####
      create config file ...
PFILE_LIST[0]=/var/opt/HA/PS/conf/bin/pfile_crond
PFILE_LIST[1]=/tmp/psst/lrt/pfile_lrt
       [ OK ]
  ##### ProcessSaver collect information end. #####
[root@rhel-8-7 bin]#
```

図 10.1.1-2a ツールの-c オプション付き実行イメージ

ツールが画面表示するメッセージについては「表 10.1.1-2a ツールの出力メッセージ説明」をご参照ください。

実行の結果、ワークディレクトリに次のコンフィグファイルが作成されます。

/var/opt/HA/PS/log/collect_info/.ps_collect_info.conf

```
[root@rhel-8-7 collect_info]# ls -al /var/opt/HA/PS/log/collect_info
合計 12
drwxr-xr-x. 2 root root   62  5月 29 15:20 .
drwxr-xr-x. 4 root root 4096  5月 29 13:55 ..
-rw-r--r--. 1 root root   96  5月 29 13:55 .ps_collect_info.conf
-rw-r--r--. 1 root root   52  5月 29 13:55 ps_collect_info.log
[root@rhel-8-7 collect_info]#
```

コンフィグファイル

図 10.1.1-2b ワークディレクトリ上に作成されたコンフィグファイルの例

ファイルが生成できないときはコンフィグファイルの編集（→④）へ
ファイルが生成できたならコンフィグファイルの確認（→③）に進んでください。

表 10.1.1-2a ツールの出力メッセージ説明

No.	メッセージ	説明
1	##### ProcessSaver collect information start. #####	情報収集ツールの開始
2	create config file ...	コンフィグファイルを作成中
3	PFILE_LIST[num]=pfilename	動作中の pcheck の pfile リストの表示 左辺の num は通番、0 オリジン 右辺は pfile 名、絶対パス
4	[OK]	生成完了（処理の成功）
5	ERROR: work directory can't create.	ワークディレクトリを作成できない
6	ERROR: Unable to remove old config file.	古いコンフィグファイルを削除できない
7	ERROR: pcheck not started.	pcheck が起動していない（コンフィグファイルを作成できない）
8	##### ProcessSaver collect information end. #####	情報収集ツールの終了

③　コンフィグファイルの確認

当ツールで生成したコンフィグファイルには動作中の pcheck の pfile のリストが記載されています。

【確認実行例】

```
# cat /var/opt/HA/PS/log/collect_info/.ps_collect_info.conf
```

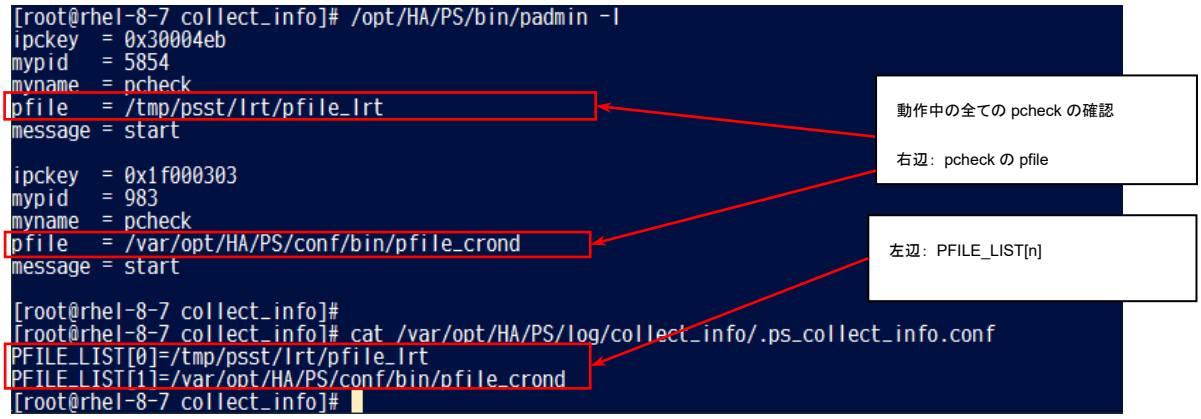

図 10.1.1-3 動作中の pcheck と生成されたコンフィグファイルの関係の説明

運用する全ての pcheck の pfile 名が PFILE_LIST[n]に設定されていることを確認します。

上記が確認できたなら「（2）障害解析情報の採取」に進んでください。

含まれていない pfile がある場合はコンフィグファイルの編集（→④）に進んでください。

④　コンフィグファイルの編集

手作業により既存のコンフィグファイルを編集(または完全に新規作成)します。

テキストエディターを用いてコンフィグファイルを編集します。

【エディター起動例】

```
# vi /var/opt/HA/PS/log/collect_info/.ps_collect_info.conf
```

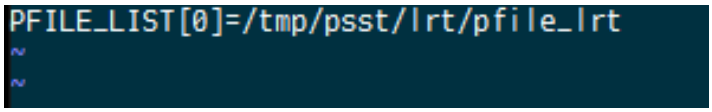

図 10.1.1-4 エディターで既存のコンフィグファイルを開いたイメージ

右辺には現在動作していない pcheck の pfile も記載できます。

動作を止めている pcheck の監視対象プロセスに関する情報を収集するようなとき

こちらの方法を用います。運用する全ての pcheck の pfile を記載してください。

表 10.1.1-4 コンフィグファイルのフォーマット

行番号	フォーマット	説明
1	PFILE_LIST[0]=<pfile 名>	左記の様式で障害解析情報を収集する対象の pcheck の pfile 名（絶対パス）を記載すること 左辺の[通番]は 0 オリジン、行毎にインクリメントする スペースは使わないこと 登録できる行数に上限はありません。
2	PFILE_LIST[1]=<pfile 名>	
:	:	
n	PFILE_LIST[n-1]=<pfile 名>	

【編集例】

```
PFILE_LIST[0]=/var/opt/HA/PS/conf/bin/pfile1
PFILE_LIST[1]=/var/opt/HA/PS/conf/bin/pfile2
PFILE_LIST[2]=/var/opt/HA/PS/conf/bin/pfile3
~
```

ファイルの編集・保存後にコンフィグファイルの確認（→③）に戻ります。

（2）障害解析情報の採取

本ツールを実行して、情報を収集します。

【管理者権限で実行】

```
# /opt/HA/PS/bin/ps_collect_info.sh
```

ツール実行後に終了ステータスとメッセージ内容を確認します。

確認内容を以降で説明します。

① 終了ステータスの確認

本ツール実行後に次のコマンドラインを実行します。

```
# echo $?
```

結果が 0 であればツールは正常終了しています。「（3） 採取結果の確認」に進んでください。

結果が 0 以外のときは異常終了です。メッセージについて確認してください。

② メッセージの確認

動作ログから次のメッセージを確認します。

- ログの先頭に「プロダクト名 collect information start.」が出ていること
- 収集する項目ごとに「[OK]」が出ていること
- ログの末尾に「プロダクト名 collect information end.」が出ていること

下表に合致するメッセージがあるときは必要な対処を行い、再度本ツールを実行してください。*1

No	メッセージ内容	原因	対処
1	ERROR: Unable to open config file.	コンフィグファイルを未作成	コンフィグファイルを作成後、再度本ツールを実行
2	- pfile collect ... [SKIP]	コンフィグファイル内の pfile パスの誤記	コンフィグファイルを編集後、再度本ツールを実行

*1 お客様で対処可能なエラーを抜粋しています

```
[root@rhel-8-7 collect_info]# cat /var/opt/HA/PS/log/collect_info/ps_collect_info.log
  ##### ProcessSaver collect information start. #####
     * rpm info collect              ...  [ OK ]
     * syslog  collect               ...  [ OK ]
     * core file  collect            ...  [ OK ]
     * service  collect              ...  [ OK ]
     * journal  collect              ...  [ OK ]
     * pcheck list information collect start
       - pcheck list collect         ...  [ OK ]
     * pfile /var/opt/HA/PS/conf/bin/pfile_crond information collect start
       - pfile  collect              ...  [ OK ]
       - padmin command result       ...  [ OK ]
       - restart script collect      ...  [ OK ]
       - pcheck dump file collect ...  [ OK ]
       - pcheck ctrl file collect ...  [ OK ]
     * pfile /tmp/psst/lrt/pfile_1 information collect start
       - pfile  collect              ...  [SKIP]
     * pfile /tmp/psst/lrt/pfile_lrt information collect start
       - pfile  collect              ...  [ OK ]
       - padmin command result       ...  [ OK ]
       - restart script collect      ...  [ OK ]
       - pcheck dump file collect ...  [ OK ]
       - pcheck ctrl file collect ...  [ OK ]
     * /proc information collect start
       - /proc info collect          ...  [ OK ]
     * another information collect start
       - process info collect        ...  [ OK ]
       - module attribute collect ...  [ OK ]
       - machine info collect        ...  [ OK ]
       - distributor collect         ...  [ OK ]
       - license info collect        ...  [ OK ]
       - kernel parameter collect ...  [ OK ]
```

[SKIP] がある

図 10.1.1-5 スキップされた pfile 情報の例

（3）採取結果の確認

/var/opt/HA/PS/log/collect_info　配下に 動作ログファイル、情報目録ファイルと収集情報ファイルの 3 ファイルが 作成されていることを確認してください。

No.	採取情報(ファイル名)	説明	備考
1	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/ps_collect_info.log	動作ログファイル	新規作成
2	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/ps_collect_info_compress.log	情報目録ファイル	新規作成
3	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/ pstool_collect_info_<date 文字列 ‘%Y%m%d’ >.tar.gz	収集情報ファイル	新規作成

上記ファイルが作成されていない場合は後述の「対処手順（1） 採取情報ファイルが作成されない場合」を実施してください。

対処手順（1）　採取情報ファイルが作成されない場合

採取情報ファイルが作成されない場合はワークディレクトリに収集された情報を手動でアーカイブ化することで、pstool_collect_info_<date 文字列 ‘%Y%m%d’ >.tar.gz を生成します。
下記コマンドを実行してください。

```
# cd /var/opt/HA/PS/log
# /usr/bin/tar cvfh pstool_collect_info_$(date +'%Y%m%d').tar /var/opt/HA/PS/log/collect_info > ps_collect_info_compress.log 2>&1
# /usr/bin/gzip pstool_collect_info_$(date +'%Y%m%d').tar

# /usr/bin/rm -rf /var/opt/HA/PS/log/collect_info/*
# /usr/bin/mv pstool_collect_info_$(date +'%Y%m%d').tar.gz /var/opt/HA/PS/log/collect_info
# /usr/bin/mv ps_collect_info_compress.log /var/opt/HA/PS/log/collect_info
# ls -al /var/opt/HA/PS/log/collect_info
```

収集情報ファイルの 2 ファイルができていることを確認してください。

No.	採取情報（ファイル名）	説明
1	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/ps_collect_info_compress.log	動作ログファイル
2	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/ pstool_collect_info_<date 文字列‘%Y%m%d’>.tar.gz	収集情報ファイル

10.1.2. 障害解析情報収集ツールでは採取しない情報の収集

障害解析情報採取ツールは下記情報を採取しません。
採取条件に一致する場合は情報を採取してください。

No.	採取情報	採取条件
1	クラスター関連情報	クラスターを構成している場合

採取手順を以下に説明します。

（1）クラスター関連情報

クラスターを構成している場合、以下のコマンドの実行結果をワークディレクトリ配下に取得してください。

【採取コマンド】

```
# cd /var/opt/HA/PS/log
# mkdir collect_info/cluster
# clplogcc -t type2 -o /var/opt/HA/PS/log/collect_info/cluster >> collect_info/cluster/cluster.txt 2>&1
# ls -la /var/opt/HA/PS/log/collect_info/cluster
```

RHEL87(設定名)-log.tar.gz クラスター関連情報のファイルができていることを確認してください。

10.1.3. 収集情報のアーカイブ化

ワークディレクトリ（/var/opt/HA/PS/log/collect_info） 配下に収集いただいた情報は、圧縮ファイル ps_collect_info_<date 文字列 ‘%Y%m%d’ >. tar.gz に固めて、送付してください。

【採取情報ファイル作成コマンド】*1

```
# cd /var/opt/HA/PS/log
# /bin/tar cvf ps_collect_info_$(date +'%Y%m%d').tar ./collect_info
# /bin/gzip ps_collect_info_$(date +'%Y%m%d').tar
```

*1　ファイルの date 文字列部分（下線部）は採取日となります。

10.1.4. 障害解析情報の一覧

障害解析情報は下記のとおりです。

（1）障害解析情報収集ツールで収集する障害解析情報

障害解析情報収集ツールが収集する障害解析情報は下記のとおりです。

No.	収集情報	収集コマンド	収集情報格納先 [1]	備考
製品本体情報				
1	/var/opt/HA/PS 配下の情報すべて	/usr/bin/cp -fp -R /var/opt/HA/PS 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/	
ライセンス関連				
2	ライセンスツールで登録ライセンスの詳細チェックを実行した結果	/opt/HA/license/bin/halkchecklicense -v <UL 型番> >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/license/halkchecklicense-v_<UL 型番>.txt	
3	/etc/hostid	/usr/bin/cp /etc/hostid 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/license	
4	hostid の実行結果	/usr/bin/hostid >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/license/hostid.txt	
5	Ip a の実行結果	/usr/sbin/ip a >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/license/ip_a.txt	
6	ls -la /opt/HA/license/conf/ の実行結果	/usr/bin/ls -la /opt/HA/license/conf/ >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/license/license_conf.txt	
7	ls -l /etc の実行結果	/usr/bin/ls -l /etc >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/license/ls-l_etc.txt	
8	ls -laR /opt/HA/license の実行結果	/usr/bin/ls -laR /opt/HA/license >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/license/ls-laR_license.txt	
9	/etc/n2l2_lockinfo	/usr/bin/cp /etc/n2l2_lockinfo 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/license	
10	rpm -qa | grep clusterpro-mc-lctools の実行結果	/usr/bin/rpm -qa | /usr/bin/grep clusterpro-mc-lctools >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/license/rpm-qa_grep_clusterpro-mc-lctools.txt	
11	rpm -qi <上記項番の実行結果である製品> の実行結果	/usr/bin/rpm -qi <上記項番の実行結果である製品> >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/license/rpm-qi_clusterpro-mc-lctools.txt	
12	ライセンス情報の収集ログ	上記 2,11 のコマンド実行ログ 上記 3,9 の /usr/bin/cp コマンド実行ログ	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/license/license.txt	
ソフトウェア関連				
13	rpm -qa の実行結果	/usr/bin/rpm -qa >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/rpm/rpm.txt	
14	rpm -qi clusterpro-mc-ps の実行結果	/usr/bin/rpm -qi clusterpro-mc-ps >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/rpm/rpm.txt	
syslog 関連				
15	/var/log/messages から始まるものすべて	ファイルリスト取得： /usr/bin/ls /var/log/messages* | /usr/bin/sort -r ファイル個別に収集： /usr/bin/cp -p syslog ファイル 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/syslog	
16	/var/log/messages ファイルの収集ログ	上記 15 の/usr/bin/cp コマンド実行ログ	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/syslog/syslog.txt	
17	grep -i -E ‘pcheck|padmin’ /var/log/messages* の実行結果	/usr/bin/grep -i -E ‘pcheck|padmin’ syslog ファイル >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/syslog/syslog_pcheck.txt	
core ファイル関連				
18	(/)	ファイルリスト取得： /usr/bin/ls / | /usr/bin/grep core 製品関係部分抽出： /usr/bin/file /core ファイル | /usr/bin/grep -i -E -q "pcheck|padmin" ファイル採取： /usr/bin/cp -p /core ファイル 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/core	
19	(/var/opt/HA/PS/log)	ファイルリスト取得： /usr/bin/ls /var/opt/HA/PS/log/ | /usr/bin/grep core 製品関係部分抽出： /usr/bin/file /var/opt/HA/PS/log/core ファイル | /usr/bin/grep -i -E -q "pcheck|padmin" ファイル採取： /usr/bin/cp -p /var/opt/HA/PS/log/core ファイル 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/core	
20	(/var/lib/systemd/coredump)	ファイルリスト取得： /usr/bin/ls /var/lib/systemd/coredump/ | /usr/bin/grep core 製品関係部分抽出： /usr/bin/file /var/lib/systemd/coredump/core ファイル | /usr/bin/grep -i -E -q "pcheck|padmin" ファイル採取： /usr/bin/cp -p /var/lib/systemd/coredump/core ファイル 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/core	
21	core ファイルの収集ログ	上記 18,19,20 の/usr/bin/cp コマンド実行ログ	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/core/core.txt	
自動起動関連				
22	/etc/systemd/system/<ProcessSaver の service ファイル名>	ファイルリスト取得： /usr/bin/find /etc/systemd/system -maxdepth 1 -type f -printf "%f¥n" 製品関係部分抽出： /usr/bin/cat /etc/systemd/system/unit ファイル| /usr/bin/grep -e pcheck -e padmin ファイル取得： /usr/bin/cp -p /etc/systemd/system/unit ファイル 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/service	RHEL7 以降が有する情報
23	unit ファイルの収集ログ	上記 22 の /usr/bin/cp コマンド実行ログ	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/service/service.txt	

24	ジャーナルログ①	/usr/bin/journalctl --all --this-boot --no-pager > journalctl_log1.txt	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/journal	RHEL7 以降が有する情報
25	ジャーナルログ②	/usr/bin/journalctl --all --this-boot --no-pager -o verbose > journalctl_log2.txt	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/journal	RHEL7 以降が有する情報
26	/etc/rc${runlevel}.d/<ProcessSaver の rc スクリプトファイル名>	製品関係部分抽出：（ランレベル 0～6） /usr/bin/grep -li -E '/opt/HA/PS/bin/pcheck|/opt/HA/PS/bin/padmin' /etc/rc${runlevel}.d/* ディレクトリ移動： /usr/bin/cd /etc/rc${runlevel}.d/ ファイル名取得： base_file=/usr/bin/ls -l ファイル名 | /usr/bin/awk '{print $NF}' ファイル採取： /usr/bin/cp -p ${base_file} 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/rc	RHEL6 のみが有する情報
27	/etc/rc.d/init.d/<ProcessSaver の rc スクリプトファイル名>	製品関係部分抽出：（ランレベル 0～6） /usr/bin/grep -li -E '/opt/HA/PS/bin/pcheck|/opt/HA/PS/bin/padmin' /etc/rc.d/init.d/* ディレクトリ移動： /usr/bin/cd /etc/rc.d/init.d/ ファイル名取得： base_file=/usr/bin/ls -l ファイル名 | /usr/bin/awk '{print $NF}' ファイル採取： /usr/bin/cp -p ${base_file} 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/rc	RHEL6 のみが有する情報
28	rc スクリプトファイルの収集ログ	上記 26,27 の/usr/bin/cp コマンド実行ログ	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/rc/rc.txt	
pfile 情報関連（設定ファイル関連）				
29	pfile	/usr/bin/cp -p <pfile_name> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}	格納先の{#n}はコンフィグファイル内の定義番号(1～)
30	pfile の収集ログ	上記 29 の/usr/bin/cp コマンド実行ログ	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/pfile.txt	同上
31	pfile に指定された再起動スクリプト	/usr/bin/cp --parents <restart_script> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/script/restart-script	同上
32	再起動スクリプトの収集ログ	上記 31 の/usr/bin/cp コマンド実行ログ	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/script/script.txt	同上
33	pfile に指定されたリトライオーバースクリプト	/usr/bin/cp --parents <clear_cmd> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/script/clear-cmd	同上
34	リトライオーバースクリプトの収集ログ	上記 33 の/usr/bin/cp コマンド実行ログ	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/script/script.txt	同上
35	pfile に指定された SHM_DUMP_FILE に記載された共有メモリダンプファイル	/usr/bin/cp -p <dumpfilename> 格納先 /usr/bin/cp -p <dumpfilename>.save1 格納先 /usr/bin/cp -p <dumpfilename>.save2 格納先 /usr/bin/cp -p <dumpfilename>_PSTAT 格納先 /usr/bin/cp -p <dumpfilename>_PSTAT.save1 格納先 /usr/bin/cp -p <dumpfilename>_PSTAT.save2 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/dump	同上
36	共有メモリダンプファイルの収集ログ	上記 35 の/usr/bin/cp コマンド実行ログ	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/dump/dump.txt	同上
37	pfile に指定された CTRL_FILE に記載されたコントロールファイル	/usr/bin/cp -p <ctrl_file>* 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/ctrl	同上
38	コントロールファイルの収集ログ	上記 37 の/usr/bin/cp コマンド実行ログ	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/ctrl/ctrl.txt	同上
pfile 情報関連（起動中の pcheck 情報のみ）				
39	/opt/HA/PS/bin/padmin -l の実行結果	/opt/HA/PS/bin/padmin -l >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/padmin-l	
40	/opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c show pent の実行結果	/opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile_name> -c show pent >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/<pfile_name>.info	格納先の#n はコンフィグファイル定義番号
41	/opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c show param の実行結果	/opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile_name> -c show param >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/<pfile_name>.info	同上
42	/opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c show group の実行結果	/opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile_name> -c show group >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/<pfile_name>.info	同上
43	/opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c show env の実行結果	/opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile_name> -c show env >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/<pfile_name>.info	同上
44	/opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c show proc の実行結果	/opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile_name> -c show proc >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/<pfile_name>.info	同上
45	/opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c check alive の実行結果	/opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile_name> -c check alive >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/<pfile_name>.info	同上
46	/opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c check stall の実行結果	/opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile_name> -c check stall >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/<pfile_name>.info	同上
47	/opt/HA/PS/bin/putil -vf <pfile_name> の実行結果	/opt/HA/PS/bin/putil -vf <pfile_name> | /usr/bin/tee -a 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/<pfile_name>.info	同上
48	/opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c unload <SHM_DUMP_FILE 名> の実行結果（先頭 4000000 行）	/opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c unload <dumpfilename> | /usr/bin/head -c 4000000 /opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c unload <dumpfilename>.save1 | /usr/bin/head -c 4000000 /opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c unload <dumpfilename>.save2 | /usr/bin/head -c 4000000	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/pfile/pfile{#n}/dump/<dumpfilename>.info	同上
その他の情報				
49	ls -lt /opt/HA/PS/bin の実行結果	/usr/bin/ls -lt /opt/HA/PS/bin >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	
50	ls -lt /opt/HA/PS/include の実行結果	/usr/bin/ls -lt /opt/HA/PS/include >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	
51	ls -lt /opt/HA/PS/lib の実行結果	/usr/bin/ls -lt /opt/HA/PS/lib >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	
52	ls -lt /opt/HA/PSWE/lib の実行結果	/usr/bin/ls -lt /opt/HA/PSWE/lib >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	
53	uname -a の実行結果	/usr/bin/uname -a >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	
54	sysctl -a の実行結果	/usr/sbin/sysctl -a >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	
55	ipcs -a の実行結果	/usr/bin/ipcs -a >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	
56	ipcs -m の実行結果	/usr/bin/ipcs -m >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	
57	ipcs -m -p の実行結果	/usr/bin/ipcs -m -p >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	
58	ipcs -m -c の実行結果	/usr/bin/ipcs -m -c >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	
59	export の実行結果	export >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	
60	ulimit -a の実行結果	/usr/bin/ulimit -a >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	

61	locale の実行結果	/usr/bin/locale >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	
62	env - date の実行結果	/usr/bin/env - /usr/bin/date >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	
63	ls -la /var/tmp | grep pcheck の実行結果	/usr/bin/ls -la /var/tmp | /usr/bin/grep pcheck >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	
64	df の実行結果	/usr/bin/df > 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/df	
65	dmesg の実行結果	/usr/bin/dmesg > 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/dmesg	
66	ps -ef の実行結果	/usr/bin/ps -ef >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/proclist.txt	
67	ps -eLf の実行結果	/usr/bin/ps -eLf >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/proclist.txt	
68	ps -eaw -ouser,pid,ppid,%cpu,%mem,vsz,rss,tty,stat,stime,cputime,priority,nice,cmd --sort pid の実行結果	/usr/bin/ps -eaw -ouser,pid,ppid,%cpu,%mem,vsz,rss,tty,stat,stime,cputime,priority,nice,cmd --sort pid | /usr/bin/grep -v grep >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/proclist.txt	
69	ls -la /opt/HA/license/conf/ の実行結果	/usr/bin/ls -la /opt/HA/license/conf/ >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	
70	hostname の実行結果	/usr/bin/hostname > 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/hostname	
71	systemctl list-unit-files の実行結果	/usr/bin/systems list-unit-files >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	RHEL7 以降が有する情報
72	chkconfig --list の実行結果	/usr/sbin/chkconfig --list >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	RHEL6 のみが有する情報
73	/etc/exports	/usr/bin/cp -p /etc/exports 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc	
74	/etc/sysconfig/i18n	/usr/bin/cp -p /etc/sysconfig/i18n 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc	
75	/etc/*-release	/usr/bin/cp -p /etc/*-release 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc	
76	ls -lt /opt/HA/MCLOG/bin の実行結果	/usr/bin/ls -lt /opt/HA/MCLOG/bin >> 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	
77	/var/opt/HA/MCLOG 配下の情報すべて	/usr/bin/cp -fp -R /var/opt/HA/MCLOG 格納先	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc	
78	その他の情報ファイルの収集ログ	上記 1,73,74,75,77 の /usr/bin/cp コマンド実行ログ	/var/opt/HA/PS/log/collect_info/etc/etc.txt	

（2）障害解析情報収集ツールで収集しない障害解析情報

障害解析情報収集ツールが収集しない障害解析情報は下記のとおりです。

No.	収集情報	収集コマンド		備考
クラスター情報				
1	CLUSTERPRO 情報	clplogcc -t type2 -o <収集情報格納先ディレクトリ>	---	

11.　付録

11.1.手動での障害解析情報の収集方法

ps コマンドなどの一部のコマンドでは、実行結果が途切れてしまう可能性がございます。
情報採取する際は、ウィンドウ幅を最大にしていただくか、下記例のように、別ファイルにリダイレクトしていただき、ファイルを送付してください。

例) # ps -ef > ps_ef.txt

- 本体
  - /var/opt/HA/PS 配下の情報すべて

- ソフトウェア関連
  - rpm -qa の実行結果
  - rpm -qi clusterpro-mc-ps の実行結果

- syslog 関連
  - /var/log/messages から始まるものすべて
  - grep -i -E "pcheck|padmin" /var/log/messages* の実行結果

- core ファイル関連
  - ls / | grep core の実行結果
  - ls /var/opt/HA/PS/log/ | grep core の実行結果
  - ls /var/lib/systemd/coredump | grep core の実行結果
    上記コマンドで一致したファイルに
  - file core
    コマンドを実行して pcheck | padmin が出力されるもの

- 自動起動関連

  [Red Hat Enterprise Linux 7.0 以降、Oracle Linux 7.0 以降の場合]

  ・ /etc/systemd/system/<ProcessSaver の service ファイル名>

  以下の情報も採取してください。
  出力情報が多いため、別ファイルにリダイレクトしております。
  リダイレクトしたファイルを送付してください。
  なお、ファイル名は変更していただいて問題ありません。

  ・ journalctl --all --this-boot --no-pager > journalctl_log1.txt
  ・ journalctl --all --this-boot --no-pager -o verbose > journalctl_log2.txt

  [Red Hat Enterprise Linux 6.x または Oracle Linux 6.x の場合]

  ・ /etc/rc.d/init.d/<ProcessSaver の rc スクリプトファイル名>
  ・ /etc/rc${runlevel}.d/<ProcessSaver の rc スクリプトファイル名>

- pfile 情報関連 (設定ファイル関連)

  ・ pfile
  ・ pfile に指定された再起動スクリプト名(shell_path)、およびスクリプト
  ・ pfile に指定されたリトライオーバースクリプト名(shell_path)、およびスクリプト
  ・ pfile に指定された SHM_DUMP_FILE に記載された共有メモリダンプファイル
    (例) pfile の SHM_DUMP_FILE に /var/opt/HA/PS/log/pcheck_dump と
    記載している場合、/var/opt/HA/PS/log/pcheck_dump で始まるファイルすべて
  ・ pfile に指定された CTRL_FILE に記載されたコントロールファイル名(shell_path)、およびスクリプト

- pfile 情報関連 (起動中の pcheck 情報のみ収集)

  ・ /opt/HA/PS/bin/padmin -l の実行結果
  ・ /opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c show pent の実行結果
  ・ /opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c show param の実行結果
  ・ /opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c show group の実行結果
  ・ /opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c show env の実行結果
  ・ /opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c show proc の実行結果
  ・ /opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c check alive の実行結果
  ・ /opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c check stall の実行結果
  ・ /opt/HA/PS/bin/putil -vf <pfile_name> の実行結果
  ・ /opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c unload <SHM_DUMP_FILE 名> の実行結果

- その他の情報
  - ・ ls -lt /opt/HA/PS/bin の実行結果
  - ・ ls -lt /opt/HA/PS/include の実行結果
  - ・ ls -lt /opt/HA/PS/lib の実行結果
  - ・ ls -lt /opt/HA/PSWE/lib の実行結果
  - ・ uname -a の実行結果
  - ・ sysctl -a の実行結果
  - ・ ipcs -a の実行結果
  - ・ ipcs -m の実行結果
  - ・ ipcs -m -p の実行結果
  - ・ ipcs -m -c の実行結果
  - ・ export の実行結果
  - ・ ulimit -a の実行結果
  - ・ locale の実行結果
  - ・ env - date の実行結果
  - ・ ls -la /var/tmp | grep pcheck の実行結果
  - ・ df の実行結果
  - ・ dmesg の実行結果
  - ・ ps -ef の実行結果
  - ・ ps -eLf の実行結果
  - ・ ps -eaw -ouser,pid,ppid,%cpu,%mem,vsz,rss,tty,stat,stime,cputime,priority,nice, cmd --sort pid の実行結果
    ※改行せずに実行してください。
  - ・ ls -la /opt/HA/license/conf/ の実行結果
  - ・ hostname の実行結果

  [Red Hat Enterprise Linux 7.0 以降、Oracle Linux 7.0 以降の場合]
  - ・ systemctl list-unit-files の実行結果

  [Red Hat Enterprise Linux 6.x または Oracle Linux 6.x の場合]
  - ・ chkconfig --list の実行結果

  以下のファイルを採取願います。
  - ・ /etc/exports
  - ・ /etc/n2l2_lockinfo
  - ・ /etc/sysconfig/i18n
  - ・ /etc/*-release

- license 関連

  ライセンスに関するお問い合わせの場合は以下の情報も採取願います。

  ※コマンド実行は、管理者権限を持つユーザーで実行してください。

  [実行コマンド]

  # ip a

  # rpm -qa | grep clusterpro-mc-lctools

  # rpm -qi <上記で表示されるパッケージ名>

  (例) clusterpro-mc-lctools-1.1.0-1.x86_64

  # ls -l /etc

  # ls -laR /opt/HA/license

  # /usr/bin/hostid

  # nmcli device show

  # /opt/HA/license/bin/halkchecklicense -v <有償ロックキー>

  [ファイル]

  /etc/n2l2_lockinfo

  /etc/hostid ※存在する場合は取得してください。

- MC LogMonitor 関連

  MC LogMonitor に関するお問い合わせの場合は以下の情報も採取願います。

  [実行コマンド]

  # ls -lt /opt/HA/MCLOG/bin

  [ファイル]

  /var/opt/HA/MCLOG 配下すべて

- クラスター情報

  ProcessSaver をクラスター連携している場合に採取してください。

  ・ clplogcc -t type2 -o <出力先のディレクトリ名> で出力先に出力されたもの。

CLUSTERPRO
MC ProcessSaver 2.10 for Linux
syslog メッセージ一覧

2025 年 4 月 第 12 版
日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目 7 番地 1 号
TEL (03) 3454-1111(代表)

© NEC Corporation 2025

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

保護用紙